医学科教育学修プログラム

令和2年度

5・6年次

【米子地区授業時間】

1時限	: 8:40 ~ 10:10
2時限	: 10:30 ~ 12:00
3時限	: 13:00 ~ 14:30
4時限	: 14:50 ~ 16:20
5時限	: 16:40 ~ 18:10

【鳥取地区授業時間】

1時限	: 8:45 ~ 10:15
2時限	: 10:30 ~ 12:00
3時限	: 13:00 ~ 14:30
4時限	: 14:45 ~ 16:15
5時限	: 16:30 ~ 18:00

令和2年度 授業時間配当表(医学科5・6年次)

5年次

	前 期(21)											後 期(21)									
	前半(10)					後半(11)						前半(10)					後半(11)				
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
1	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	1	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I
2	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	2	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I
3	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	3	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I
4	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	4	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I	臨床実習 I
5											5										

6年次

	前 期(16)											後 期(8)									
	前半(4)					後半(12)						前半(4)					後半(4)				
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
1	医療情報学2	医療情報学2	医療情報学2	保健予防医学	医療情報学2	臨床実習 II	1														
2	保健予防医学	保健予防医学	保健予防医学	保健予防医学	保健予防医学	臨床実習 II	2														
3	臨床医学特論2	臨床医学特論2	臨床医学特論2	臨床医学特論2	臨床医学特論2	臨床実習 II	3														
4	臨床医学特論2	臨床医学特論2	臨床医学特論2	臨床医学特論2	臨床医学特論2	臨床実習 II	4														
5											5										

※配当表のとおり実施できない科目がありますので、シラバスを確認すること。
 ※5限目等で補講を行う。休講補講等の通知は掲示板で行うので確認すること。

令和2年度・七曜表 (医学科5年次)

	前 期							週 数
	日	月	火	水	木	金	土	
4				1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	1
	12	13	14	15	16	17	18	2
	19	20	21	22	23	24	25	3
	26	27	28	29	30	1	2	4
5	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	5
	17	18	19	20	21	22	23	6
	24	25	26	27	28	29	30	7
6	31	1	2	3	4	5	6	8
	7	8	9	10	11	12	13	9
	14	15	16	17	18	19	20	10
	21	22	23	24	25	26	27	11
7	28	29	30	1	2	3	4	12
	5	6	7	8	9	10	11	13
	12	13	14	15	16	17	18	14
	19	20	21	22	23	24	25	15
8	26	27	28	29	30	31	1	16
	2	3	4	5	6	7	8	補
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
9	23	24	25	26	27	28	29	17
	30	31	1	2	3	4	5	18
	6	7	8	9	10	11	12	19
	13	14	15	16	17	18	19	20
	20	21	22	23	24	25	26	21
27	28	29	30				22	

	後 期							週 数
	日	月	火	水	木	金	土	
10					1	2	3	22
	4	5	6	7	8	9	10	23
	11	12	13	14	15	16	17	24
	18	19	20	21	22	23	24	25
	25	26	27	28	29	30	31	26
	11	1	2	3	4	5	6	7
8		9	10	11	12	13	14	28
15		16	17	18	19	20	21	29
22		23	24	25	26	27	28	30
12	29	30	1	2	3	4	5	31
	6	7	8	9	10	11	12	32
	13	14	15	16	17	18	19	33
	20	21	22	23	24	25	26	34
	27	28	29	30	31	1	2	
1	3	4	5	6	7	8	9	補
	10	11	12	13	14	15	16	35
	17	18	19	20	21	22	23	36
	24	25	26	27	28	29	30	37
2	31	1	2	3	4	5	6	38
	7	8	9	10	11	12	13	39
	14	15	16	17	18	19	20	40
	21	22	23	24	25	26	27	41
3	28	1	2	3	4	5	6	42
	7	8	9	10	11	12	13	補
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				

備考

- 第13週が「形成外科」となる班は、この実習は8月3日(月)から8月4日(火)に実施する。
- ◇ 第21週が「歯科口腔外科」となる班は、この実習は1月6日(水)から1月8日(金)または3月8日(月)から3月12日(金)の間に実施する

課題による自宅学習及び体調観察期間

実習期間

令和2年度・七曜表

(医学科6年次)

	前 期							週 数		後 期							週 数	
	日	月	火	水	木	金	土			日	月	火	水	木	金	土		
4				1	2	3	4	1	卒業 試験					1	2	3	10	
	5	6	7	8	9	10	11	2		4	5	6	7	8	9	10		
	12	13	14	15	16	17	18	3		11	12	13	14	15	16	17		
	19	20	21	22	23	24	25	4		18	19	20	21	22	23	24		
	26	27	28	29	30	1	2	試験		25	26	27	28	29	30	31		
5	3	4	5	6	7	8	9	再		1	2	3	4	5	6	7	11	
	10	11	12	13	14	15	16			8	9	10	11	12	13	14		
	17	18	19	20	21	22	23			5	15	16	17	18	19	20		21
	24	25	26	27	28	29	30			6	22	23	24	25	26	27		28
6	31	1	2	3	4	5	6	7		29	30	1	2	3	4	5	12	
	7	8	9	10	11	12	13	8	6	7	8	9	10	11	12			
	14	15	16	17	18	19	20	9	13	14	15	16	17	18	19			
	21	22	23	24	25	26	27	10	20	21	22	23	24	25	26			
7	28	29	30	1	2	3	4	11	27	28	29	30	31	1	2	1		
	5	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9			
	12	13	14	15	16	17	18	13	10	11	12	13	14	15	16			
	19	20	21	22	23	24	25	14	17	18	19	20	21	22	23			
	26	27	28	29	30	31	1	15	24	25	26	27	28	29	30			
8	2	3	4	5	6	7	8	16	31	1	2	3	4	5	6	2		
	9	10	11	12	13	14	15	7	7	8	9	10	11	12	13			
	16	17	18	19	20	21	22	14	14	15	16	17	18	19	20			
	23	24	25	26	27	28	29	21	21	22	23	24	25	26	27			
9	30	31	1	2	3	4	5	再	28	1	2	3	4	5	6	3		
	6	7	8	9	10	11	12		7	7	8	9	10	11	12		13	
	13	14	15	16	17	18	19		13	14	15	16	17	18	19		20	
	20	21	22	23	24	25	26		20	21	22	23	24	25	26		27	
	27	28	29	30					27	28	29	30	31					

備考

- ◇ 4月30日(木) 定期試験開始
- ◇ 5月8日(金) 定期試験終了
- ◇ 5月11日(月) 再試験期間開始
- ◇ 5月15日(金) 再試験期間終了
- ◇ 9月28日(月) 再試験期間開始
- ◇ 9月30日(水) 再試験期間終了

 課題による自宅学習及び体調観察期間

 月曜授業
 火曜授業
 水曜授業
 木曜授業
 金曜授業
 実習期間

鳥取大学医学部医学科コンピテンシ・コンピテンシーとの関連表【5・6年次】

凡例	高度 Advanced	A	医師と同等のレベルであること	学年	5年	6年					卒業時の到達度	
	応用 Applied	B	スチューデントドクター相当の医学生として模範的に関与、行動できる			科目名	臨床実習 I	保健予防医学	医療情報学 2	臨床実習 II		臨床医学特論 2
	基礎 Basic	C	基礎となる能力を習得していること									
		D	基礎となる知識を習得していること									
	E	経験・習得する機会はあるが、単位認定に関係ない										
	F	経験・習得する機会がない										
				単位	34						1	
				科目責任者	俊海之藤	米尾厚崎	博近史藤	俊海之藤	武今史村			

I 倫理・プロフェッショナリズム

*責任ある医療を実践するための倫理観を持ち、それに基づいて行動できる。
 *患者の利益を重視する患者中心の医療を習得し、実践できる。
 *生涯にわたり自己研鑽して高い医療水準と誠実さを持ち続けるために、内発的動機による自己学習能力を持ち、応用できる。

1 医の倫理および生命倫理を理解して、適切に行動または判断できる。	B	B	C	B	B	C	B
2 利益相反等、研究倫理に関わる問題を理解して、適切に行動または判断できる。	B	B	C	B	B	C	B
3 患者や家族のプライバシーに配慮し、守秘義務を厳守することができる。	B	A	E	B	A	C	A
4 患者中心の医療について理解し、実践できる。	B	B	C	B	B	C	B
5 内発的動機の重要性を理解して自己学習し、医療の知識、技能、態度を維持向上することができる。	B	B	F	B	B	C	B
6 社会的に求められる医師像について討論し、目指す医師像を明確にすることができる。	B	B	D	B	B	C	B
7 社会的使命を果たすため、信頼できる行動をとることができる。	B	B	D	B	B	C	B
8 患者や家族にはさまざまな価値観があることを認識し、受け入れることができる。	B	B	D	B	A	C	A
9 同僚や後輩との間で、診療に関する知識や技能を教えあつて共有できる。	B	B	E	B	B	E	B
10 様々なキャリアの医師と交流して、主体的に自らのキャリアについて考えることができる。	B	B	E	B	B	E	B

II コミュニケーション

*思いやり的心や共感的理解力といったヒューマンコミュニケーション能力を実践的に習得して、医療現場等で応用できる。
 *障害者とコミュニケーションしたり、地域フィールドの中でコミュニケーションしたりする能力を実践的に習得して、医療現場等で応用できる。
 *情報社会を理解して、安全かつ有効に情報ネットワークを活用できる。

1 患者や患者家族とコミュニケーションを通じて、良好な関係を築くことができる。	B	B	D	B	A	C	A
2 医療チームのメンバーとコミュニケーションを通じて、連携を図ることができる。	B	B	D	B	B	D	B
3 聴覚障害者などの障害者と手話等でコミュニケーションをとって、円滑な診療をサポートすることができる。	A	B	F	F	B	F	A
4 地域フィールドの中で、地域住民、行政関係者、医療関係者らとコミュニケーションをとり、社会性を身につけ良好な関係を築くことができる。	B	B	D	B	B	C	B
5 安全かつ有効に情報ネットワークを活用してコミュニケーションを取ったり、情報を収集したりできる。	CD	CD	F	A	B	D	B

III チーム医療

*他の医療従事者の役割を理解し、連携してチーム医療を行う能力とともに、医師としてリーダーシップを発揮してチームビルディングする能力を習得する。

1 医療チームの中で役割を持ち、適切に相談・報告・連絡を行うことができる。	B	B	F	B	B	F	B
2 他の医療専門職を目指す学生と交流し、それぞれに異なる価値観があることを認識し、受け入れることができる。	C	B	F	B	A	F	A
3 他の医療専門職との連携を実践できる。	C	B	F	B	B	D	B

IV 医学の知識

*最新の基礎科学、基礎医学、臨床医学、社会医学の知識を習得して、応用できる。
 *医療安全の基礎を学び、予防と対策を講じることができる。

1 物理学・化学・生物学の知識を人体の構造や機能の理解に応用できる。	B	B	F	B	B	D	B
2 人体の正常構造と機能や生命現象に関する知識を習得して、病態の理解に応用できる。	B	B	E	B	B	D	B
3 人体に関する正常および病態の知識を診断・治療に応用できる。	B	B	E	B	B	D	B
4 診療に関わる基本的知識と技能を習得して、臨床実習に実践・応用できる。	B	B	E	B	B	D	B
5 ガイドラインや論文の情報を活用して、科学的根拠に基づく医療 (EBM) を実践できる。	B	B	E	B	B	D	B
6 疫学、予防、保健、福祉、医療経済といった医療の社会性に関する知識を習得して、地域で応用できる。	B	B	D	B	B	D	B
7 医療安全の知識を習得して、患者や医療従事者に起こる医療上の事故及び医療関連感染症を防ぐことができる。	B	A	D	B	A	D	A

V 診療の実践

*診療に必要な症候・病態について理解するとともに、基本的な診療知識と診療技能を用いて医療面接および身体診察を行い、得られた情報をもとに臨床診断を行い、治療計画を立案することができる。
 *総合的診療および全人的医療の能力を習得し、実践できる。

1 早期から医療従事者としてのモチベーションを高めて実践的に示すことができる。	C	B	E	C	E	E	B
2 適切な医療面接で患者の病歴を正しく聴取して整理できる。	B	B	F	C	B	C	B
3 身体診察を適切に行って全身状態や身体各部の所見をとり、病状を判断できる。	B	B	F	C	B	C	B
4 病歴や身体診察の結果から必要な検査を選択し、検査結果を解釈できる。	B	B	E	C	B	C	B
5 病歴、診察所見、検査結果等の情報を整理して臨床推論を行い、疾患を診断することができる。	B	B	E	C	B	C	B
6 適切な治療計画を立案することができる。	B	B	E	C	B	C	B
7 診療録や医療文書を適切に作成できる。	B	B	F	C	B	F	B
8 病状説明や患者教育に参加できる。	B	B	E	C	B	C	B
9 カンファレンスなどで臨床実習の成果を発表、討議できる。	B	B	F	C	B	F	B

VI 知的探究と創造性

*常に知的探究心を持ち、基礎と臨床の連携で涵養されるリサーチマインドを身につけるとともに、実践的に医学研究に応用できる。
 *イノベーションの重要性を理解して、実践できる。

1 医学・科学研究の成果が社会に貢献している実情を知り、重要性を理解できる。	B	B	E	B	B	C	B
2 医学的・科学的に意義のある研究課題を見出し、研究に取り組むことができる。	B	B	F	B	B	F	B
3 データを解析し、論理的に発表・討論してプレゼンテーションできる。	B	B	C	B	B	D	B
4 臨床的に意義のある研究課題を見出し、トランスレーショナルリサーチの可能性について探索できる。	B	B	F	C	B	C	B
5 創造性豊かな医療人となる基礎を身につけて、診療や医学研究に応用できる。	CD	E	E	C	E	C	OD
6 医療における発明の重要性を理解して、イノベーションを実践できる。	C	E	E	C	E	C	C

VII 国際性

*グローバル化に対応できる語学能力と国際感覚を身につけて、応用できる。

1 英語を母国語とする人と対話ができる。	C	E	F	F	E	F	C
2 国際的な視点で医学研究の情報を収集し、議論して発信できる。	C	B	F	F	B	F	B
3 診療英会話を習得して、実践できる。	C	E	E	F	E	E	C
4 国際交流に関心を持ち、多様な異文化を理解できる。	B	E	D	B	E	D	B

VIII 地域医療

*地域社会を大切に思い、地域における医療のニーズを認識したうえで、地域医療に貢献できる。

1 地域住民の健康状態には、家族、地域社会、文化などの社会環境が関与していることを理解できる。	C	C	C	F	C	C	C
2 地域医療に必要なプライマリケアの考え方や技能を習得し、基礎的事項を実践できる。	D	C	F	F	C	C	C
3 地域や地域で暮らす人を尊重し、コミュニティと連携して地域医療の向上に貢献できる。	D	D	F	F	D	D	D

医学科5・6年次目次

5年次通年

区分	授業科目名	
必修 専門科目	臨床実習 I	 手引参照

6年次前期

区分	授業科目名	
必修 専門科目	保健予防医学	 1
必修 専門科目	医療情報学2	 2
必修 専門科目	臨床医学特論2	 3
必修 専門科目	臨床実習 II	 手引参照

※臨床実習 I・IIについては、オリエンテーションで配布する手引を参照してください。

授業のレベルについて

- 1: 入門及び初級レベル
- 2: 中級レベル(基礎科目)
- 3: 中級～上級レベル(応用科目)
- 4: 上級レベル(発展科目)
- 5: 大学院レベル

保健予防医学

科目到達目標: 公衆衛生学、衛生学全般に関する知識を習得し、国家試験に備える。

科目責任者(所属): 尾崎 米厚(環境予防医学)

連絡先: 環境予防医学分野 0859-38-6103

回数	月日	時限	講義室	授業内容	担当者	講座・分野・診療科	到達目標	授業のキーワード
			資料配布(manaba)	保健医療論: 健康・疾病・障害と社会環境、保健・医療・福祉・介護、国際保健	黒沢 洋一	健康政策医学	医療者にとって不可欠な健康に対する理解と国際的視野からの健康・疾病・障害への考えを深める。高齢者医療や福祉の特徴と医師の役割を説明できる。	健康の定義、歴史的変遷、環境、疾病構造、ライフステージ、QOL、ADL、ノーマライゼーション、医療・社会福祉資源・施設・機能、医事・保健・介護関連法規、国際協力、WHO、ILO、NGO
	4/15以降	講義で補足		生活環境因子と疾患: 依存・中毒(アルコール、食中毒など)	尾崎 米厚	環境予防医学	飲酒や喫煙の依存・中毒、食中毒、病害動物による疾患への理解を深める。	食中毒、アルコール依存、ニコチン依存、睡眠薬依存
		中止		聞こえない人の特性とコミュニケーション	石橋 大吾	解剖学(非常勤講師)	医療従事者として、聞こえない患者にどのように向き合う必要があるか理解を深める。	聞こえない人、医療現場
			資料配布(manaba)	保健医療論: 社会保障制度と医療経済	黒沢 洋一	健康政策医学	医療人として習熟しておくべき社会保障制度とそれを取り巻く医療経済への理解を深める。	国民医療費、社会福祉、社会保険、医療経済、医療の質
		中止		税について一般知識を理解	香川 正博 海藤 俊行	学部教育支援室	1.国の一般会計における税収の状況と消費税の役割を理解する。 2.公的医療保険及び介護保険制度と税の関係を理解する。 3.医大生にまつわる税の事例を通じて税制を理解する。	1.財政健全化(国の財政状況)、所得・資産・消費における税負担、消費税増税の背景 2.社会保障制度と税制(社会保障と税の一体改革とは) 3.ライフステージにおける税との関わり方(所得税~相続税)、申告納税制度(確定申告の必要な場合)
			資料配布(manaba)	保健医療論: 地域保健、地域医療	黒沢 洋一	健康政策医学	地域を意識した医療・保健に対する理解を深める。	医療圏、プライマリヘルスケア、健康増進、地域包括医療、救急医療、へき地医療、健康日本21、健康教育
		中止		衛生行政のトピックス	正林 督章	環境予防医学(非常勤講師)	厚生行政の最新のトピックスについて理解する。	感染症対策、新型インフルエンザ、予防接種、新興感染症、肝炎対策、健康増進法、都道府県の衛生行政
1	4/15(水)	2	131	国民栄養、食品保健、学校保健	天野 宏紀	健康政策医学	国民栄養の現状を理解し、食品衛生を維持する方法を知り、学校保健の要点を理解する。	国民栄養の現状、国民健康栄養調査、食品衛生法、食品添加物、児童生徒の健康課題、学校保健対策の現状
2	4/16(木)	1	131	生活環境因子・職業性因子と疾患: 物理的原因、産業保健・職業性疾患	黒沢 洋一	健康政策医学	医療現場で頻出する産業医学の知識とそれに関連する多様な疾患への理解を深める。	作業関連疾患、作業様態関連障害(VDT、腰痛など)、金属中毒、化学物質中毒環境医学、騒音障害、気象医学(熱中症など)、振動障害、産業医、健康管理・作業環境管理・作業管理、業務上疾病、管理体制、許容濃度・管理濃度、労働災害、トータルヘルスマネジメントプラン
3	4/16(木)	2	131	国際保健	飽浦 淳介	視覚病態学(非常勤講師)	国際保健活動の実例を知り将来の進路のひとつとして認識する。	国際保健、国際医療協力、眼科疾患、熱帯医学
4	4/17(金)	2	131	疫学方法論、人口・保健統計	尾崎 米厚	環境予防医学	疫学の方法論を理解し、医療現場の課題解決に対する活用の仕方を理解する。	疫学研究方法論、年齢調整・標準化、リスク比、疫学の諸指標、スクリーニング検査、生命表、人口動態、人口動態統計
5	4/20(月)	2	131	生活習慣とリスク、健康の保持増進	桑原 祐樹	環境予防医学	生活習慣とそのリスクについて学ぶ。健康の保持増進について理解を深める。	予防医学、健康日本21、健康増進法、生活習慣病とリスクファクター(食生活、運動、休養・心の健康(睡眠の質、不眠、ストレス対策、過重労働対策、自殺の予防))、健康寿命の延伸と生活の質(quality of life<QOL>)向上、行動変容、健康づくり支援のための環境整備
6	4/21(火)	2	131	感染症対策、精神保健福祉 #1ウェブでの参加可	金城 文	環境予防医学	感染症対策の考え方、適用場面、精神保健福祉政策について理解する。	感染症対策の基本事項、感染症法、感染経路、集団発生時の調査、精神保健福祉行政の実態
7	4/22(水)	2	131	患者の人権・医の倫理、社会と医療	尾崎 米厚	環境予防医学	患者の人権と医の倫理、医療と社会の調和についての理解を深める。	医の倫理と医師の義務、医師と患者および家族との関係、チーム医療、先端医療技術の社会との調和
8	4/23(木)	1	131	環境保健	黒沢 洋一	健康政策医学	健康影響が考えられる環境問題と制御方法を理解する。	地球環境問題、公害、環境保全、廃棄物、環境基本法、環境基準、環境影響評価
9	4/23(木)	2	131	母子保健、成人・老人保健 #1ウェブでの参加可	金城 文	環境予防医学	ライフステージに沿った保健活動について理解する。	母子保健活動、高齢者保健、介護予防

教育ブランドデザインとの関連: 1、2

学位授与の方針との関連: 1、4

授業のレベル: 1(初級)

評価: 定期試験 100%

実務経験との関連: 国、自治体で関連分野に関わる医師、教員が各自の専門分野に関する講義をおこなう。

教科書: 「国民衛生の動向」(厚生労働統計協会)

※到達目標・授業のキーワードを確認の上、予習・復習してください。

予習、復習: 講義内容に沿って、医師国家試験の過去問を予習、復習してください。

医療情報学2

科目到達目標:研修医として臨床現場に必要な医療情報学の考え方が理解できる。

科目責任者(所属教室):近藤 博史(医療情報部)

連絡先:konodh@med.tottori-u.ac.jp

回数	月日	時限	講義室	授業内容	担当者	講座・分野・診療科	到達目標	授業のキーワード
1	4/17(金)	1	131	個人情報保護と医療情報システム	近藤 博史	医療情報部	個人情報保護と医療情報の扱い方の重要性が理解できる	個人情報保護、情報漏洩
2	4/17(金)	5	131	医療情報とセキュリティ	近藤 博史	医療情報部	医療情報とセキュリティ が概説できる。	ISMS, セキュリティー技術
3	4/20(月)	5	131	地域医療連携と標準化	近藤 博史	医療情報部	地域医療連携と標準化が説明できる。	病診連携、病病連携、標準化、コード、標準規格
4	4/21(火)	1	131	先進の医療情報システム	鈴木 英夫	非常勤講師	先進の医療情報システム	クラウド、AI, IoT
5	4/21(火)	5	131	病院情報システムと安全管理	近藤 博史	医療情報部	病院情報システムと安全管理が概説できる。	フェイルセーフ、インシデント
6	4/22(水)	1	131	医療経済学基礎	近藤 博史	医療情報部	医療経済学基礎 が概説できる。	医療費、医療資源
7	4/24(金)	5	131	臨床疫学とEBMの基礎	近藤 博史	医療情報部	臨床疫学とEBMの基礎が説明できる。	メタ分析、交絡、EBM
8	4/27(月)	5	131	医療における方針選択と判断分析	近藤 博史	医療情報部	医療における方針選択と判断分析が説明できる。	決断分析、決断分岐図

教育グランドデザインとの関連:3

※到達目標・授業のキーワードを確認の上、予習・復習してください。

学位授与方針との関連:4

授業のレベル:3

評価:定期試験100%

実務経験との関連:無し

参考書:1. 医療情報 第5版、情報処理技術編、医療情報システム編及び医学・医療編、篠原出版、2016年

臨床医学特論2

科目到達目標:臨床医学において近年重要性が増している領域の基本知識を習得する。

科目責任者(所属教室):今村 武史(薬理学・薬物療法学) 連絡先:timamura@tottori-u.ac.jpまでメールください

回数	月日	時限	講義室	講義内容	担当者	分野・診療科	到達目標	講義のキーワード
漢方医学								
1	4/16(木)	4	131	和漢薬の薬理	今村 武史	薬理学・薬物療法学	和漢薬の成り立ち、種類を学び代表的生薬・処方を理解する。	和漢薬、漢方薬、作用機序
緩和医療								
2	4/16(木)	3	131	緩和医療における疼痛管理	大槻 明広	麻酔科	オピオイドや鎮痛補助薬、NSAIDsの使用時期と使用法、副作用を理解する。	オピオイド、NSAIDs、鎮痛補助薬、神経ブロック
3	4/20(月)	3	131	緩和医療における精神症状管理	梶谷 直史	精神科	癌患者特有の精神病理を理解し、患者との接し方や対話法を学ぶ。	精神腫瘍学、不眠、不安、抑うつ、せん妄、スピリチュアルペイン
4	4/20(月)	4	131	緩和医療におけるチーム医療、および	大山 賢治	がんセンター	緩和ケアにおけるチーム医療、緩和ケア病棟、在宅医療、地域連携、消化器・呼吸器症状等に対する治療を理解する。	チーム医療、メディカルスタッフ、緩和ケア病棟、在宅医療、嘔気、便秘、腹水、呼吸困難、全身倦怠感
臨床試験・治験								
5	4/15(水)	3	131	臨床研究とそのデザイン	尾崎 米厚	環境予防医学	研究計画を立てるための基礎知識として、観察研究や介入研究について	観察研究、介入研究、症例報告、コホート研究、ランダム化比較試験、クロスオーバー試験、システマティックレビュー
6	4/15(水)	4	131	臨床試験・治験と薬効評価	遠藤 佑輔	新規医療研究推進センター	科学的臨床薬効評価法を理解する。臨床試験・治験の仕組みを理解する。	I～III相試験、バイアス、プラセボ、ランダム化、DBT、医師主導、第IV相試験
7	4/17(金)	3	131	GCPとIRB	遠藤 佑輔	新規医療研究推進センター	日・米・欧3極共通のGCP、治験審査委員会について理解する。治験責任・分担医師・CRCの要件や役割を理解する	ICH、GCP、治験実施計画書、治験責任医師、CRC、科学的・倫理的妥当性
8	4/17(金)	4	131	医薬品開発と倫理(1)	今村 武史	薬理学・薬物療法学	医薬品開発の経緯と問題点を理解する	ヘルシンキ宣言、創薬・育薬、ヒト対象医学研究倫理指針
9	4/21(火)	3	131	医薬品開発と倫理(2)	今村 武史	薬理学・薬物療法学	医薬品開発の意義を理解し、研究倫理の諸事項を理解する	ヘルシンキ宣言、創薬・育薬、ヒト対象医学研究倫理指針
10	4/21(火)	4	131	非臨床と臨床試験・治験	今村 武史	薬理学・薬物療法学	医薬品開発における非臨床試験、非臨床から臨床試験への流れを理解する	非臨床試験、薬効薬理試験、一般薬理試験、毒性(安全性)試験、治験、

教育グランドデザインとの関連:1、2、3、6、7

学位授与の方針との関連:1、2、4

評価:定期試験

授業のレベル:3(応用科目)

実務経験との関連:現役の医師あるいは薬剤師がその経験を活かし、各自の専門分野に関する講義を行う。

教科書:臨床薬理学、入門漢方医学など適宜紹介する。